

園名

八潮わかば幼稚園



テーマ

自然との関わり ～木と草と子どもと～

設定の理由

本園の幼児は自然豊かな地域の中で、木々や草花などに触れながら遊び、興味関心をもって関わる姿が見られる。幼児自らが「やってみよう」と意欲をもったり、「なぜだろう？」と試行錯誤したりする姿を読み取り、地域の豊かな自然環境活用した環境作り・保育者の援助について探ることで、好奇心・探究心を育むことができるのではないかと考えた。

対象年齢

4 歳児
5 歳児

事例① ～秋の森に行こう～ 4歳児

今年度は、3回八潮の森に出かけた。2回目の散策（11月）は、秋の自然の変化に気付く様子が見られた。散策後は、見つけた自然物を使って、今まで体験したことのある遊びに取り入れながら新しい発見をしたり、気付いたことを保育者や友達に伝えたりする姿が見られた。

環境のデザイン

【自然散策】（散策中に見つけた自然物を入れたり、よく見たりできるように）

・ビニールで作った散歩バック・プラスチック容器・虫眼鏡・白い布・粘着パネル など

【園内】（自然物ですぐに遊べるように）

・透明カップ・粘着テープを貼った紙皿
・自然物を分けて置けるカゴ など



探究活動

●活動内容

2回目の自然散策では、カリンの実など新しい自然物を見つけた。カリンを園に持ち帰り、カップに水を足しながら、色の変化や香りに気付き「ジュース」に見立てて遊ぶ姿が見られた。

●子どもたちの様子

・「水と混ぜると甘い匂いがする！」香りに気付く。
・「カリンの中はどうなってるのかな？」と興味をもつ。切ってみると、「種があった！」「硬いんだね」など気付いたことを言葉にしていた。

振り返りをふまえた気づき

●園の先生たちの気づき

・散策に繰り返し行くことで、幼児自身が季節の変化に気づいていた。ただ見たり、触れたりするだけでなく形や感触、香りなどにも興味をもつようになった。
・園に戻って、すぐに自然物を使って遊べる環境を事前に用意しておくことで、試したり、大きさを比べたり、遊びに取り入れたりして楽しむ姿が見られた。次回は幼児がより深く自然散策を楽しめる事前の環境や導入を工夫していきたい。

事例② ～冬の森に行こう～ 5歳児

今年度は、3回八潮の森に出かけた。3回目の散策（1月）は、「じっくり見る」をテーマに散策の始め（導入）にカモフラージュゲームを行った。園に戻ってから散策で見つけた自然物を使って遊んだり、箱庭に取り入れたりして自分たちで考えたり調べたりして遊ぶ姿が見られた。

環境のデザイン

【自然散策】（散策中にじっくり見る体験ができるように）

- ・カモフラージュに使う動物のフィギア
- ・虫メガネ・蓋つき透明カップ など

【園内】（見つけた自然物を使って遊べる場や物）・水槽で作った箱庭・自然物を分類しておける棚・厚紙・リボン・粘着テープ など

探究活動

●活動内容

「じっくり見る」ことをテーマに木の表面や木の穴など虫メガネを使って観察していた。木の根の長さを自分たちが何人立てるか、など友達と協力して図り、長さを体感したりしている様子が見られた。

●子どもたちの様子

- ・「この木は、何人並べるかな？」など自分たちで考えて、試したり調べたりしていた。
- ・木の穴など見えない部分に興味をもち枝を入れて確認していた。



振り返りをふまえた気づき

●先生たちの気づき

- ・自然に関わり、楽しかったこと、不思議に思ったことを友達と共有することで、考えを伝え合い更に気づきを深めようとする姿が見られた。幼児の「やってみたい」という思いを尊重し、じっくり関われる時間・場・物を保障していくことが探究を深めることにつながる。

●講師の指導から

- ・活動と活動の間の時間（日々の生活の中）で探究が深められている。園と森の生活（遊び）をつなげていくことが大切。